一期一会

令和５年度 朝礼（2/5）　校長の話

おはようございます。

まだまだ厳しい寒さが続きますが、暦の上では春を迎えました。節分の豆まきをした家庭があったかもしれませんが、節分とは季節を分ける日という意味、つまり冬から春へと季節が変わったことを意味します。学校の裏庭には、真っ赤な梅の花が満開なのを気づいたでしょうか。ほんの少しですが、春の気配が感じられるようになりました。しかし、今日の午後は雪が予想されます。三寒四温といって、三つの寒い時期と四つの温かい時期を交互に過ごして、ようやく本格的な温かさが訪れるといいます。今後も、防寒対策を怠らないようにしましょう。

さて、今日、皆さんにご紹介する四字熟語は「一期一会」です。ある調査では、この「一期一会」が好きな四字熟語第１位なのだそうです。皆さんの中にも、この言葉をよく知っている人がいるかもしれませんね。

「一期」とは「人間の一生」という意味です。「一会」とは「一回だけの出会い」という意味です。つまり、一生のうち、たった一回だけ出会い、その先は二度と会うことがない、という意味です。いったい何を言っているのでしょう。

もともとは茶道で使われていた言葉だと言います。主人が茶室にお客を招き、お茶をたてて差し上げて、ゆっくりとした時間を過ごすのが茶道ですが、その一回一回に心を込めて、二度と再び同じ時間が来ないものと覚悟して、大事に過ごすべきだという心得を「一期一会」と言いました。確かにそう考えると、いつも会っている人であっても、その出会う状況は毎回違います。時間帯やお天気や周りの景色も違うときがありますし、そのときの気分や着ている服が違うことだってあります。つまり、私たちの出会いには同じものなど何ひとつない、いつもその一回だけのものなのです。

そう考えると、あたりまえに感じていたことが何か違ったもののように感じないではないでしょうか。それがたった一回で、二度とないものだと知ると、その一回がとても大事なものに感じませんか。おろそかにしてはいけない、しっかりと心をこめて向き合わなければならないという思いに駆られます。それは人との出会いに限りません。景色との出会い、音楽との出会い、花や木など自然との出会いもまた、同じように一度きりだと思うと、その一回一回がいとおしく感じられます。この思いが「一期一会」ということです。どうでしょう、話を聞きながら皆さんには感じられたでしょうか。

東日本大震災のあと、こんな記事がありました。それは、ある女子中学生の記事です。３月１１日、その日の朝、彼女はいらつくことがあってお祖母ちゃんと喧嘩をしていました。そのため、いつもだったら「行ってきます」「行ってらっしゃい」と言って家を出るのに、その日に限って何も言わずに不機嫌なまま黙って外へ出てしまいました。午後２時４６分、震度７の地震が東北地方に襲いかかります。大混乱の中、家に帰ると、彼女を待っていたのはお祖母ちゃんが亡くなったという知らせでした。それから何年もたつのに、彼女の胸に去来するのは、なぜ、あのとき、いつものように「行ってきます」と言えなかったのか。なぜ不機嫌なまま、愛する祖母と最後の別れをしてしまったの

か、という思いです。できることなら、あの日の朝に帰りたい、もう一度おばあちゃんに「行ってきます」と元気に言ってみたい。でも、同じ日は二度と来ません。

毎日あることを、人はおろそかにしがちです。しかし、二度とこれが繰り返されないと思えば、一回一回をベストにしたいと考え直すことができます。「一期一会」という言葉は、そんなふうに人生との向き合い方を教えてくれる言葉だと思います。

皆さんは今いる友達との出会いを大切にしていますか。今年度も残りわずかになりました。同じクラスでいられる日も、永遠には続きません。一日一日の仲間との交流を、「一期一会」の心境で大切に、大切に過ごしてほしいと思います。

私の話は以上です。